

## 026 ひなたのまんなかで～全国障がい者アート作品展～

開催日：令和3年7月2日(金)～11日(日) ■ 開催場所：宮崎県立美術館 県民ギャラリー(宮崎市)



## 実施状況

全国の障がいのある人やそのグループから応募のあった平面、立体、写真、書の4部門の美術作品545点すべてを展示し、約2,000人が来場しました。いずれも力作ぞろいで、一般の美術展と同様に審査員6人による審査を行い入賞作品を決定。さらに、会期中来場できなかった方にも鑑賞いただけるように、作品展終了後はウェブ上での作品展も実施しました。会場には、色彩豊かな絵画やちぎり絵、写真、造形物など幅広い分野の作品が多数展示されました。写真と見まがうほど精巧なデッサン、段ボール紙に揮毫したオリジナルの詩、繊細な手作業から生み出された刺し子など、独創的な表現力を感じる作品ぞろい。来場者はひとつひとつじっくりと見入っていました。

また、短歌や俳句、自由詩など、応募のあった文芸作品40点の記録集を作成し、会場で配布しました。知人と訪れたという女性は「どれも独自の感性が生かされた作品ばかりで、見応えがあった」と感想を述べていました。

展示初日には、審査員を務めた美術家の中津川浩章さんによる「障がいの芸術表現の魅力と可能性」と題した講演や講評も行われました。

## 表彰など

表彰／大賞1点、部門賞5点(平面のみ2点)、奨励賞10点  
審査員／中津川浩章(美術家)、池田昭圭(画家)、齋藤泉(画家)、小河孝浩(写真家)、泰田久史(陶芸家)、今井美恵子(書道家)

## 主催

厚生労働省、文化庁、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、宮崎県障害者社会参加推進センター ▽協賛=大和証券株式会社

## 027 “こころ”のふれあうフェスタ 2020

開催日：令和3年8月7日(土) ■ 開催場所：メディキット県民文化センター 演劇ホール(宮崎市)



## 実施状況

県と県障害者社会参加推進センターが、障害者週間にあわせて平成25年度から実施してきた、県内の障がいのある人が主役のステージイベントを芸文祭の一環として開催しました。

来場者約230人は、公募出演者6組による詩の朗読、神楽、バンド演奏などのほか、ゲスト出演者の書道パフォーマンスや手話狂言、ダンス、演劇など、多彩な演目に見入っていました。

会場では、全国障がい者アート作品展の表彰式、県内の特別支援学校の紹介パネルや作業学習作品の展示、障がい福祉施設等の物品販売も行われました。

また、前日6日に開催した「手話と狂言のワークショップ」(講師：(一社)三宅狂言会(和泉流)三宅近成さん、日本ろう者劇団代表 江副悟史さん、同劇団 田家佳子さん)には30名が参加し、貴重な体験の機会を楽しみました。

## ステージ発表

【ゲスト出演者】アルケミスト(ライブ)、三歩人&舞鶴一座秋月鼓童(書道パフォーマンス)、Team りらぼんてんこ(コンテンポラリーダンス)、日本ろう者劇団(手話狂言)、みやざき◎まあるい劇場(演劇)【公募出演者】キャンバスクラブ(ダンス、手話、ハンドベル)、倉山幸一(詩の朗読)、なかま project(バンド演奏)、日南くろしお支援学校(神楽)、牧原裕樹(クラシックギター演奏)、宮村京子(ピアノ演奏)

## 主催

厚生労働省、文化庁、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、宮崎県障害者社会参加推進センター

## 028 演劇公演「ゆかいアート村で会いましょう」

開催日：令和3年8月21日(土) ■ 開催場所：三股町立文化会館(三股町)



## 実施状況

県内のどこかにあるという架空の村「ゆかいアート村」の何もない美術館を舞台に、就職活動に悩む女子大生が、個性豊かな村人たちとの出会いを通して、自分の生き方を見つめ直すストーリーの演劇公演を上演し、約100人が来場しました。

みやざき演劇若手の会で活動する5人による原案を、劇団こふく劇場(都城市)の永山智行さんが構成・演出。障がいのある人を含む劇団員や演劇ワークショップ「みまた座」の小中学生など、多様な演者34人が出演しました。

聴覚障がいのある人にも生の演劇を楽しんでもらえるよう、希望者に台本を渡したり、手話ができる俳優を語り手役に起用して手話で概要説明を行うなど、物語の展開が分かるような工夫も凝らしました。

また、出演者らが稽古から本番を迎えるまでの「記録」と、演技に初挑戦の聴覚障がい者2名が主役の「ドラマ」で構成する映画「記記録憶」(脚本・監督：伊達忍さん(宮崎市))を、県立美術館(宮崎市)で10月15日から17日の間、上映しました。

## 出演者など

【演劇公演】出演団体／みやざき◎まあるい劇場、みやざき演劇若手の会、劇団こふく劇場、演劇ワークショップみまた座ほか  
▽作／「みやざき演劇若手の会」有村 香澄、池田 孝彰、小牧 祐菜、進藤 綾乃、三門 佳太▽構成・演出／永山智行(劇団こふく劇場代表)

## 主催

厚生労働省、文化庁、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、三股町、三股町教育委員会、合同会社こふく劇場

## 029 第40回わたぼうし宮崎コンサート2020

開催日：令和3年8月22日(日) ■ 開催場所：宮崎市民文化ホール 大ホール(宮崎市)



## 実施状況

宮崎わたぼうし会により、長年にわたり丁寧<sup>はぐく</sup>に育まれ、障がいのある人となない人が音楽を通して出会いを重ねてきたコンサートを、芸文祭の一環として実施しました。

県民から公募した詩の中から入選作品6点をメロディーに乗せて紹介する第1部と、地元で音楽活動に取り組む皆さんのオリジナルコンサートの第2部で構成。

第1部で披露された入選作品のうち、最優秀賞の県知事賞に「白い空」(黒木洋高さん作詞、田原公彦さん作曲)、来場者の投票で選ばれる宮崎わたぼうし大賞に「願い」(松山律子さん作詞、日野真一さん作曲)が選ばれました。

第2部には、特別ゲストの全国で活躍するピアニスト、野田あすかさん(宮崎市)など5組が出演(一部映像出演)しました。

生きる希望や家族への感謝の思いなどを込めた歌や演奏が披露され、あたたかい思いが会場を包みました。

会場で聴き入った女性は、「作詩者の思いがメロディーを通して伝わりました。分け隔てのない社会に少しでも近づいてほしい」と感想を述べました。

## 表彰

県知事賞、宮崎市長賞、県教育委員会教育長賞、県社会福祉協議会会長賞、県ボランティア協会会長賞、(一財)たんぽぽの家理事長賞、県障害者社会参加推進センター所長賞

## 主催

厚生労働省、文化庁、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、宮崎わたぼうし会 ▽協賛=旭化成株式会社



## 030 短歌展「みやざき短歌きらり★」

開催日：令和3年9月18日(土)～26日(日) ■ 開催場所：メディキット県民文化センター イベントホール(宮崎市)



## 実施状況

若山牧水や本県ゆかりの歌人、県内外におけるさまざまな取組の中で詠まれた短歌106首を映像や写真、オブジェと共にアート作品として3つのゾーンに分けて展示し、約600人が来場しました。

新たな展示スタイルにより短歌本来の魅力に気づききっかけを作るとともに、障がいのある人や介護に携わる人などの歌を紹介することで、多様性への理解が一層促進されることを目的に開催したものです。

入口には「全国盲学生短歌コンクール入選歌集」の作品や「心豊かに歌うふれあい短歌集『老いて歌おう』掲載作品を壁や天井一面に配して紹介する「短歌トンネル」を設置し、続く「インスタレーションゾーン」では、壁面やバルーン、漫画のせりふの形のボード、天井から吊されたアクリルボードにより短歌を紹介しました。「短歌超入門ゾーン」では、国文祭事業で実施した初心者向けのワークショップで作られた短歌をイメージした絵や写真を、身長を超える高さの大きな壁面に表現しました。

「短歌と灯／映像とのコラボレーションゾーン」では、映像や照明、音楽を組み合わせ、幻想的に短歌の世界を表現しました。3台の高さを変えたモニターを設置し、車椅子などでの鑑賞にも配慮しました。

会場には、日向高校生の詠んだ歌をイメージして、日向高校と日向ひまわり支援学校の生徒が制作した絵画も展示しました。

## 主催

厚生労働省、文化庁、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

## 031 アートフェスティバル

開催日：令和3年10月2日(土) ■ 開催場所：MRTmicc、みやざきアートセンター、宮崎キネマ館、県庁5号館(宮崎市)



## 実施状況

宮崎市の4会場で、演奏、体験型アート、ワークショップ、ライブドローイングなど、まちなかでアートに親しむイベントを国文祭事業「子どもと楽しむミュージック・デイ」(宮崎会場)と同時に開催しました。

感染症拡大防止のため、当初予定していた屋外会場を全て屋内へ変更して実施しましたが、子ども連れの家族など約850人が参加しました。

各催しに加え、県内特別支援学校13校が1点ずつ出品した作品を掲載したカレンダーを来場者に配布するとともに、作品を2会場に展示したほか、みやざきアートセンター1階に、宮崎北高校と明星視覚支援学校の生徒が制作したオブジェを配置しました。

## プログラム

即興演奏／音遊びの会・みやざき中央支援学校音楽クラブ▽演奏／野田あすか&宮崎第一高校・宮崎日大高校吹奏楽部▽ライブドローイング／寺田克也▽アートツールキャラバン／早稲田大学大泉ゼミ▽共遊楽器で遊ぼう！／金箱淳▽「身近なもので打楽器をつくろう」ワークショップ・演奏／宮崎ドラムサークル▽貸し傘アートのワークショップ／Doまんなかモール▽木工製品の販売・伝統工芸士パネル展示／向陽園▽「音で見るみやざき神話」の上演、即興演奏／Co-Musictherapy療法士会 MIYAZAKI▽映画「こどもが映画をつくるとき」／監督：井口奈己

## 主催

厚生労働省、文化庁、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、特定非営利活動法人宮崎文化本舗

## 032 宮崎アーティストファイル「ギフト展」

開催日：令和3年10月2日(土)～17日(日) ■ 開催場所：高鍋町美術館(高鍋町)



## 実施状況

高鍋町美術館が平成27年から実施している企画展「宮崎アーティストファイル」の5回目。今回は「ギフト展」として、障がいのあるアーティストにスポットを当てて開催しました。

会場には、作家13人による122作品を展示し、約1,050人が来場しました。魚眼レンズでのぞいたような人物画、色とりどりのセロハンでステンドグラスのように仕上げた貼り絵など、独創性に富んだ作品の数々とともに、学芸員の綿密な調査を経て、作家の創作風景やその家族・支援者の思いをキュレーターズ・ボイスとして展示・紹介しました。

さらに、視覚障がいのある人も平面作品などを手で触れて鑑賞できるよう、3Dプリンターで作品の一部をかたどった鑑賞キットも展示しました。

また、伊藤有紀恵さんと中武卓さんの公開制作のほか、滋賀県立美術館ディレクターの保坂健二朗さんの講演会や映画上映、学芸員によるギャラリートークも実施しました。

## 出品作家

切り紙／藤岡祐機(熊本県)、セロハン貼り絵／伊藤有紀恵(宮崎市)、クレパス画／井上健太郎(日向市)、陶芸／大庭康紀(高鍋町)、シャープペンシル画／黒河修介(宮崎市)、立体／後藤拓也(日向市)、色鉛筆画／崎村昇平(宮崎市)、アクリル画／椎葉達也(日向市)、木彫／鈴木健太(日向市)、陶芸／樋本耕一(日南市)、クレパス画／中武卓(宮崎市)、書／野海靖治(宮崎市)、鉛筆画・ペン画／山村崇純(都農町)

## 主催

厚生労働省、文化庁、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭高鍋町実行委員会、高鍋町美術館

## 033 ココロノイロ ～県内障がい者アート作品展～

開催日：令和3年10月9日(土)～17日(日) ■ 開催場所：宮崎県立美術館 県民ギャラリー(宮崎市)



## 実施状況

平成25年度から県が実施してきた、県内で公募した障がい者アーティストを紹介する「“こころ”のふれあうフェスタ作品展」と、今回で19回目を迎える、県内13校の特別支援学校生の作品を発表する「県立特別支援学校アート展」の合同展として、初めて開催しました。

特別支援学校作品380点、一般公募作品129点、合同作品1点の合計510点の豊かな感性が表現された多彩な絵画や書、写真、立体作品が展示され、約2,100人が来場しました。

合同作品「つながる」は、合同展を記念して制作したもので、特別支援学校生、障がい者福祉関係施設等の利用者が段ボールなどで作った600点以上の人形やお面をひもでつなぎ、途中で大きな渦を描きながら、入口から出口まで会場全体を色鮮やかに装飾しました。

このほか、作者の居住地によって東西南北にエリア分けして作品を展示するといった工夫や、作者に作品にかかる思いを取材した動画を会場で放映したり、画材を展示するコーナーを設けるなど、作者を紹介する取組を行いました。

また、関連イベントとして、視覚障がいのある人と一緒に作品展を鑑賞するツアーや、知的財産権を学ぶ講演会、創作活動の見学や座談会も実施しました。

## 主催

厚生労働省、文化庁、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、宮崎県障がい者芸術文化支援センター、宮崎県立特別支援学校校長会



## 034 トークイベント「表現からつながる」

開催日：令和3年10月14日(木)

開催場所：メディキット県民文化センター イベントホール(宮崎市)



## 実施状況

障がい者の表現活動をテーマに、芸文祭をきっかけに交流を深めた福祉、教育、美術の各分野の関係者によるトークイベントを開催しました。

第1部では、障がい者アート活動に長年携わる美術家・中津川浩章さんと宮崎大学教育学部の石川千佳子教授が、ヴァン・ゴッホや瑛九などの作品や生き方と障がい者アートとの共通点、障がい者アートの将来について対談を行いました。

第2部では、芸文祭で実施した「ココロノイロ～県内障がい者アート作品展～」に携わった愛甲貴大さんと森山恭子さん、「宮崎アーティストファイル『ギフト展』」を企画した青井美保さん、県立美術館学芸員の古賀昌美さん、第1部から引き続き登壇した中津川さんの5人が座談会を行い、宮崎の障がいのある人のアート活動の現状や展望について、意見を交わしました。

## プログラム

【第1部】「表現」とは「芸術」とは何か／中津川浩章(美術家・アートディレクター・キュレーター)、石川千佳子(宮崎大学教授)

【第2部】障がい者アート×芸文祭＝広がる可能性／愛甲貴大(アートステーションどんこや生活支援員)、青井美保(高鍋町美術館学芸員)、古賀昌美(県立美術館学芸員)、中津川浩章(美術家・アートディレクター・キュレーター)、森山恭子(みやざき中央支援学校教頭)

## 主催

厚生労働省、文化庁、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

## 035 全国連携事業「不死鳥(フェニックス)ウォールアート」展示

開催日：令和3年7月2日(金)～10月17日(日)

開催場所：宮崎県立美術館(宮崎市)



## 実施状況

本県の大会が、復興五輪と位置づけられた東京オリンピック・パラリンピック大会と同年に開催されることを記念して、アートの力で被災地を応援することを目的に、全国から公募した作品を組み合わせ、一つの大型作品を制作しました。制作したのは、何度でも苦難に打ち勝つ伝説の鳥「不死鳥(フェニックス)」です。

不死鳥の翼を構成する羽根のぬり絵を公募したところ、全国から1万2,000点を超える多数の作品の応募がありました。

応募作品の中から選んだ作品をスキャンしてデータ化し、組み合わせると赤と青の不死鳥デザイン2体を制作。赤の不死鳥は、県立美術館1階のガラス面に掲示しました。

また、青の不死鳥は、本県とカツオ漁を通じて関係の深い宮城県気仙沼市に贈呈し、「まち・ひと・しごと交流プラザ」に掲示しました(令和3年4月17日～)。

宮崎県知事及び気仙沼市長出席のもと、7月25日に気仙沼市で開催した記念式典では、宮崎市在住のピアニスト 野田あすかさんの演奏に合わせて気仙沼市の小学生が大会PRソング「ココロノイロ」を合唱し、アートを通じて、両者の絆を改めて認識する機会となりました。

## 主催

厚生労働省、文化庁、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会